

社員研修センターの移転について

当社社員研修センターについては、平成27年7月より新築移転工事を進めてまいりましたが、昨年11月末に新建物が竣工し、本年1月4日に新建物の一部使用を開始しております。

現在、社員研修センター内各施設の整備等を進めており、2月には完了する予定です。

1 移転目的

旧社員研修センター（札幌市東区北5条東10丁目）は、建築から約50年が経過し建物が著しく老朽化したことに加え、苗穂駅周辺地区整備事業における北口駅前広場及び北口アクセス道路の整備に伴い、建物の一部が支障することから、これを機に、新社員研修センターを札幌市手稲区の当社所有地に新築し移転することとしました。併せて設備の機能強化を図ることとし、安全意識の向上を目的として「安全研修館」を設置するほか、鉄道の技能・技術の習得のため、現場の状況に即して学べる実習機能の充実を図っています。

2 施設概要

(1) 所在地 札幌市手稲区曙1条3丁目
※函館線稲穂駅から約370m

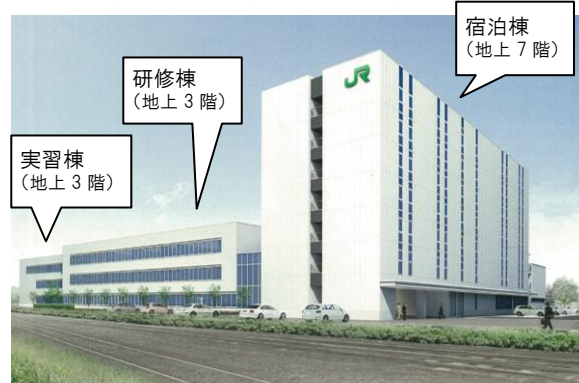
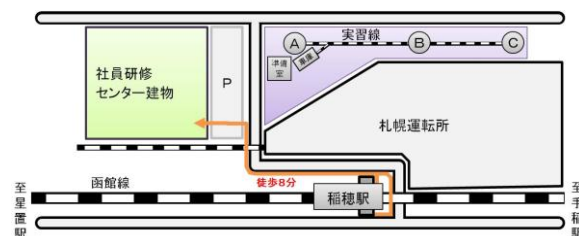
(2) 建物概要

- ・ 敷地面積 : 12,193㎡
- ・ 建築面積 : 6,551㎡
- ・ 延床面積 : 17,734㎡
- ・ 主な建物 : 研修棟 (地上3階)
実習棟 (地上3階)
宿泊棟 (地上7階、394名収容)

(3) 事業費 (計画) 86.7億円
(うち新築移転76.1億円、実習線整備10.6億円)

(4) 移転経緯

- ・ 平成27年7月13日 着工
- ・ 平成28年11月30日 竣工
- ・ 平成29年1月4日 新建物の一部を使用開始
- ・ 平成29年4月 (予定) 実習線の使用を開始



3 施設の特徴



○総合訓練室

乗務員（運転士・車掌）の運転取扱い訓練に使用する「運転シミュレータ」を増設し、実践的な訓練の充実を図ります。



○技能実習室

天井クレーンを設置し、社員研修センター内での玉掛け技能実習を可能とします。



○運転訓練室

踏切や信号機器、通信機器等を設置し、設備メンテナンスや運転取扱いの実習に活用します。



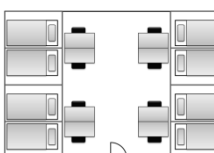
○接客実習室

駅窓口のカウンターや自動券売機、自動改札機を設置し、駅での実際の場面に即した実習を行います。



○マルス端末室

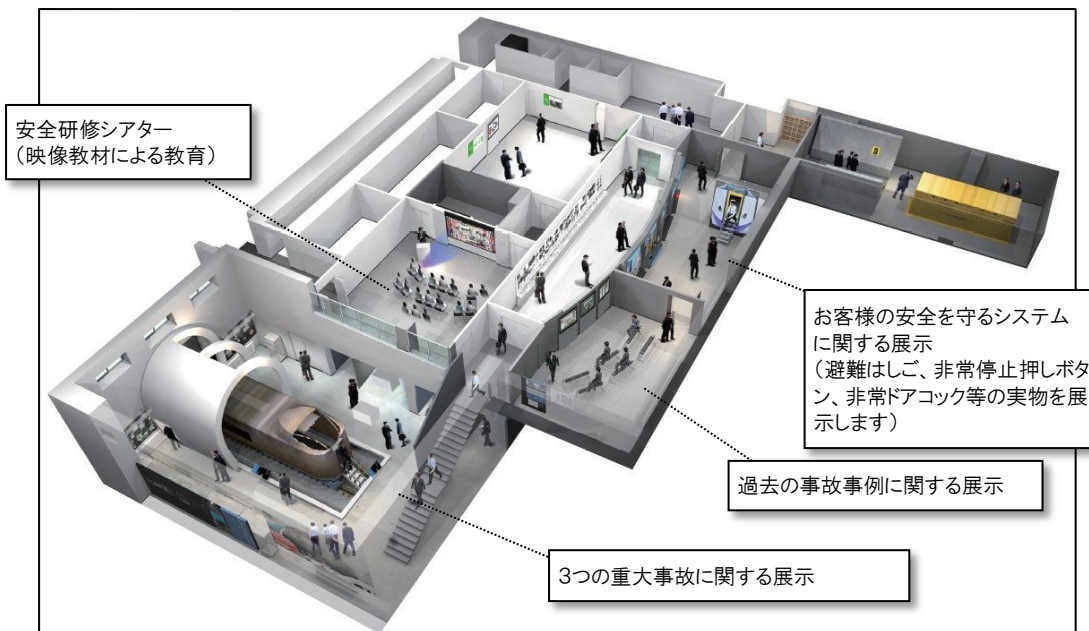
駅窓口の販売端末を10台増備し20台設置、販売端末を使用した実習機会を拡大します。



○宿泊室（8人部屋）

1床ごとに区切ったブースを8つ設けたほか、談話テーブルを設置し、集合生活とプライバシー確保を両立できる空間としています。

4 「安全研修館」



- ・ 実習棟 1・2階の一部を「安全研修館」とします。
- ・ 「安全研修館」は、全社員を対象として行う「安全研修」のほか、新入社員や管理者を対象とした研修等で使用し、安全・コンプライアンス意識を醸成する場とします。

○ 社員の安全教育に活用します

平成25年4月から平成28年8月にかけて、JR北海道の全社員及びJR北海道グループ会社の鉄道事業に従事する一部社員を対象に、石勝線列車脱線火災事故についての反省と教訓を通して、お客様の命を守るための社員としての使命感やとるべき行動について学習する「安全研修」を実施し、約9,300名が受講しました。

本年3月より、「安全研修（第2期）」として、石勝線列車脱線火災事故から大沼駅構内貨物列車脱線事故・線路検査データ改ざんまでに発生した一連の事故・事象、事業改善命令・監督命令を受けた当社の現状を振り返るとともに、「JR北海道 安全の再生」をはじめとする当社の安全の考え方を理解し、安全・コンプライアンス意識を醸成することを目的とした研修を、全社員を対象に開講します。



○ 「3つの重大事故から学ぶ」ゾーンでの研修イメージ

「安全研修館」では、当社が発生させた「石勝線列車脱線火災事故」、「183系特急気動車エンジントラブル」、「函館線大沼駅構内貨物列車脱線事故」に関わる現物等を展示した「3つの重大事故から学ぶ」ゾーンを設け、それぞれの事故概要や原因をはじめ、事故・事象に至る「背景」「教訓」「対策」について学びます。

- ① 事故を象徴する写真の大型グラフィックで事故の重大さを伝えます。
- ② 映像教材を活用し、事故の概要、教訓や対策等を伝えます。
- ③ 事故の実物を見て触れることにより、事故当時の状況をリアルに体感させます。
- ④ 講師の講話や関係者のインタビュー映像で事故に遭われたお客様の思いや事故の悲慘さを伝えます。
- ⑤ 研修生への問いかけにより、事故を一人ひとりに自分事化させます。

5 実習線

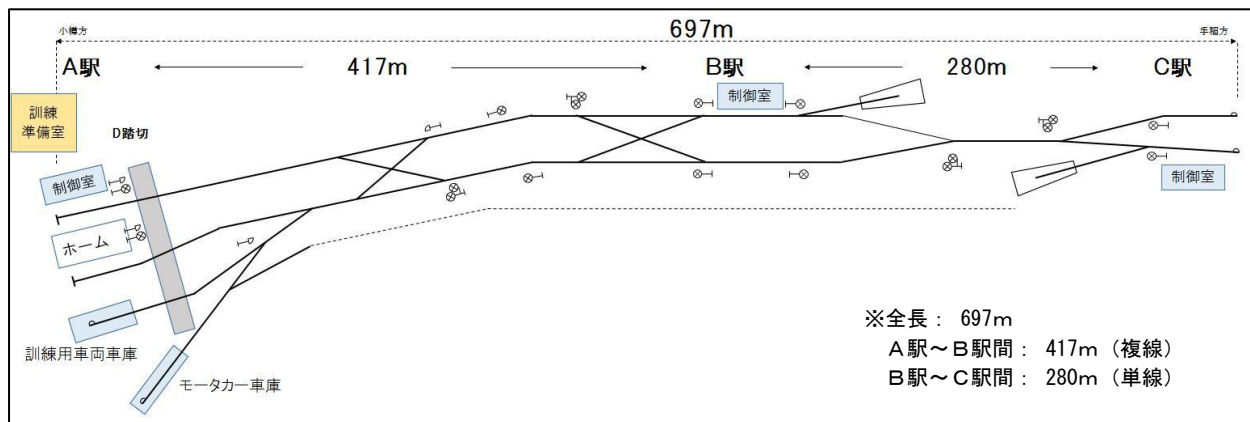
社員研修センターの手稲方（札幌運転所隣接地）に、全長697mの実習線を整備します。

- 単線・複線の線路や分岐器（ポイント）、駅ホームを使用して、信号故障時に列車を運転させる際の取扱い等、実際のケースに即した異常時運転取扱い訓練を行える設備とします。
- 信号機、踏切、架線等の実物を使用しての設備メンテナンスの実習に対応します。
- 訓練用車両2両を配備し、車両の切り離しや連結作業の訓練に対応するほか、保守用車を配備し、軌道や保守用車のメンテナンス実習に対応します。



▲実習線工事状況(平成28年11月撮影)

○ 配線図



※ 実習線の完成は、平成29年4月を予定しています。